

DATA：循環器内科

- 日本循環器学会認定専門医研修施設
- 主な対象疾患：急性心筋梗塞や狭心症といった冠動脈疾患（虚血性心疾患）、心不全、不整脈、拡張型心筋症をはじめとする心筋疾患、弁膜症、先天性心疾患（成人）、動脈瘤などの大動脈疾患

24時間、365日体制で循環器を見守る

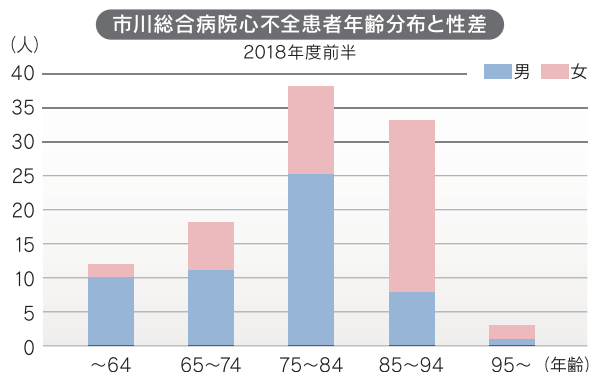
急性心筋梗塞、狭心症、心不全といった生命に直結する心臓疾患を治療するため、当科では「心臓病センター」として24時間365日体制で循環器専門医が待機し、急患の受け入れを行っています。一刻を争う循環器疾患では、ときとして心臓血管外科と連携するなど内科的・外科的両側面に対応します。急性期治療の後には慢性期治療（高血圧、高脂血症、糖尿病など）のコントロールを行いながら経過を評価するなど9名の医師（うち7名が日本循環器学会専門医）で外来、病棟、心臓病センターの対応を行い、患者さんの命を救うため日々活動しています。

心不全パンデミック!?

1970年に高齢化社会（人口に占める65歳以上の割合：高齢化率が7%超）となって以降、少子化の影響も受けて更なる超高齢社会（高齢化率が27.7%

心不全パンデミックに備える！

（2017年）へと突入して久しい現在。人生100年時代を生きるうえで、高齢者の罹患率が圧倒的に高いのが慢性心不全です。50代の発症率は1%であるのに対し、80代以上では10%になることが米国の研究で報告されています。加えて、2018年のがんの全国罹患数は約100万人で、心不全は約120万人。心不全患者は毎年約1万人ずつ増加しており2030年には130万人に達すると見込まれています。このように増加していく心不全が、今後大流行（パンデミック）すると予想されているのです。



50~70代の発症リスクが高い狭心症、心臓弁膜症、心房細動などの循環器疾患では、技術や治療薬の質が向上し、現在は回復可能な疾患です。その結果、心不全状態（ステージB：器質的心疾患のあるリスクステージ/急性・慢性心不全診療ガイドラインによる）の患者さん、すなわち慢性心不全予備軍の状態生活を継続している患者さんが増加しました。

その方々がさらに年を重ねて80代となると、リスクの増加にもなって急性心不全を発症（ステージC：心不全ステージ）しやすくなります。そうすると入院治療が行われますが、退院しても日常生活でリスクを排除することができないと、また心不全を発症し入院治療を行うといった経過を繰り返すようになります。この連鎖が、病床不足を招く一因となるのではないかと懸念されています。



地域のみなさまと築き上げる多職種連携パス

循環器内科

よって、ステージBからCへの連鎖をいかに食い止めるか、ステージCに移行しない生活を見守っていけるかが、このパンデミックを防ぐ大きなポイントになるのです。そのためには、地域の医療に携わるみなさまの力が絶対に必要です。



多職種連携パス作成を目指して

ステージBの患者さんへの生活指導は、水分摂取の管理がとても重要です。テレビなどの健康情報によって高齢者は脱水予防のために多めの飲水を心がけている状況が見受けられますが、心不全予備軍の患者さんにとって過剰な水分摂取は浮腫や肺水腫を招く大きなリスクになります。そのようなリスクのある患者さんには、是非ともかかりつけ医の先生方の指導で正しい教育を行っていただきたいと思っています。それとともにくすりの飲み忘れはないか、感染症を発症していないか、適切な運動を実践できているかなど、日常生活で心不全発症のリスクを抑える多種多様な生活指導も必要になります。

これらを踏まえて、心不全のための多職種連携パスが必要になると考えています。広島や九州など一部の地域で動

き始めているようですが、是非とも市川市地域でも心不全連携パスを作成していきたいと考えています。

今年30回を迎える「ハートカンファレンス」、24時間対応可能な「心臓病センターホットライン」などを通じて、地域のみなさまとの連携関係が強固な循環器分野だからこそ、みなさまのお力、お知恵を借りながら作成できるものと思っております。この連携パスができれば、地域医療支援病院としてみなさまの後方支援を行うといった本来の連携の形がより明確になるのではないのでしょうか。

来るべき心不全パンデミックに備え、今できることをみなさまとともに整備していきたいと考えています。是非お力をお貸しください。

Dr's profile



Takahiro Ohki

大木貴博 医師



出身

東京都杉並区荻窪
(くほの会※結成)
※荻窪、宮久保またはえくほのある方の会

スポーツ歴

馬術部

趣味

ソロ活、ソロ旅、ソロ呑み
(※ソロ=おひとり様)、
一宮の御朱印集め、
写真撮影(医師会写真部所属!)

循環器内科医になったきっかけ

心臓は臓器として面白い分野だから。

座右の銘

自分の目を信じる!

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日:午前9時～午後5時 土曜日:午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)